



「竹に山茶花」押し花  
井原 幸子さん(川上町領家)



「野ねずみ家族」樹脂粘土細工  
原田 康子さん(有漢町上有漢)

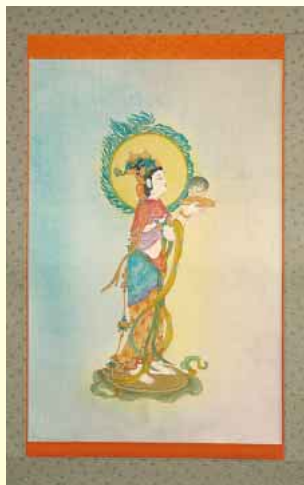


「おしどり」ちぎり絵  
吉村 美穂子さん(和田町)



「盆・大国主之命」備中彫り  
渡邊 俊雄さん(成羽町成羽)

「月天観音」手描き友禅  
沼本 征子さん(南町)



「窓辺」油絵  
平井 みどりさん(備中町長屋)

## 作品の募集について

- 【文芸】短歌、俳句、川柳など
- 【作品】絵画、工芸品、町の風景写真など
- 自作の未発表作品で、一人一作品とします。
- ギャラリーの作品については、その写真をお送りください。  
(撮影が困難な場合は、ご連絡ください)
- 住所・氏名・電話番号・作品の場合はタイトルを明記のうえ、お送りください。
- ※締め切り 掲載号の前月の末日(必着)

- 問い合わせ・送り先  
〒716-8501 (住所不要)  
高梁市役所企画課公聴広報係 ☎0210  
Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp
- ※応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ※提供いただいた写真等は返却できません。

## 文芸たかはし

短歌

(敬称略)

病院で介護者一人二人と友となりかたり合う気持ち同じ  
桜舞う友と通ひし坂道に遠きにしえの学舎偲ぶ

赤木 文子 (備中町西山)

井上 明彦 (備中町平川)

中天に臙に霞む月明り庭の紅梅仄かに匂う

梅野 八郎 (松山)

気がつけば喜寿とう歳を迎えおり遣せるもの何もなきまに

小野はる恵 (原田南町)

侘しきはラップに包み水色の小箱に秘めてそとにかぎかけ

亀石恵美子 (川上町仁賀山郷に粉雪の舞う古墓地に彼岸参りや草餅供う)

山郷に粉雪の舞う古墓地に彼岸参りや草餅供う

下向 近雄 (備中町平川)

来て見ればゆ・ら・らは未だ寒空に姪に連れられ幸湯治

田中 弘子 (川上町領家)

春の陽に苦味を求めて山裾へ山菜よもぎ滋養強壯

原田 由き (高倉町飯部)

ひらがなの如く心もほぐれゆく早春の雨詩情豊かに

平 初音 (高倉町田井)

さくら咲く夜を凍らす雪花に変動多き浮世重ねる

宮本 宮吉 (川上町七地)

春待ちの庭に黄色くまんさくは雪花が舞う寒空の下

森崎 道子 (宇治町宇治)

おぞうに食べ二月に一つ年とりぬ

平松 幾代 (長寿園内)

俳句

彼岸冷えからすとびたち餅おとす

結城 成子 (宇治町宇治)

就職に祖父のへそくり熨斗袋  
今の世は犯罪ばかりが勝負する  
くやしさを勝利に変えて世界一

中島 清市 (成羽町吹屋出身)  
藤井タツ子 (備中町西山)  
横田 早苗 (備中町西山)

## 地名をよるし

### 十八 鍋坂



市内落合町福地の字地名(行政区分名)に「鍋坂」があります。国道三二二号を成羽川に沿って西に上り、成羽橋手前を右に取って福地に入る、すぐの集落が「鍋坂」なのです。

この付近は成羽川と支流の福地川が合流する地点で、享保六年(一七二二)閏七月の大洪水のとき「鍋坂の海(街)道破損して、漸く垣根の竹にとりつきいわ(邑)あれ(荒)たる所ははひ(ひ)わたるほど(程)なり」と江国掃部なる人が記録を書いている(「江国掃部畧日記」)。「岡山県古文書集」当時、成羽川の洪水によって「鍋坂」が大被害を受けたことが記録されています。北は福地白水地区、東は福地境谷地区や阿部が、南は成羽川を隔てて対岸に成羽町渡雁、西には成羽の町が広がります。

「鍋坂」には、成羽川の差別浸食によってできた分離丘陵(ケルンバット)を思わせる海拔二六六mの小さな尾根(小突起部)が南に突き出ている、眼下に成羽川が湾曲して流れ、山の鞍部は、つまり土地のたわんだところで山越えの要所となり峠(たわ越えの意)となっている地形なのです。この地形が「鍋坂」という地名の由来になっているのです。

「鍋坂」は以前の福地村(戦国期の「備中兵乱記」)、「寛永備中国絵図」(白地村)に属していて、幕府領時代より以後になると元和三年(一六一七)成羽藩領、万治元年(一六五八)から旗本山崎領(後・成羽藩)そして明治二二年(一八八九)落合村福地となりました。

「鍋坂」は古くから鍋坂峠といわれる峠で東に番所のあった松山藩と成羽藩の境界であった境谷から、松山・成羽往来がこの峠を越えて「鍋坂」の柳瀬へ出て、渡し舟で対岸の成羽の町へと渡っていました。柳瀬には今でも船着場の河岸や猿尾が残っています。柳瀬という地名は成羽藩の築場があったところから築瀬(柳瀬)の地名が残っている場所なのです。

鍋坂峠には辻堂である観音堂があつて堂の中に本尊の聖観音座像の石仏が祭られ、横には明治一三年銘の地神様や大きなむくの木が残り、地域の人々の休憩の場所として大切にされ、地元の人々はこの峠を満楽園と名付けています。

また、南の尾根(分離丘陵)に上がると、眼下に成羽川や成羽の町、そして愛宕山や鶴首山が、東には境谷地区や対岸の渡雁が一望できる最高の「展望台」なのです。以前この頂上には千手観音菩薩を祭る(現在、白水の大福寺に移されている)満願寺という寺があつたといわれ、参道には三三観音霊場、たつた頃の石仏が点在しています。一番の石仏は、半迦思惟の如意輪観音像で、文化九年(一八一二)壬申と記れ、近世に流行した観音信仰の霊場だつたことが分かります。南の成羽川に向つて突き出たこの山は「のろし山」ともいわれていたらしく成羽藩にとつて城下や境谷の番所が見え、軍事上重要な場所だつたのです。

「鍋坂」の北側には、民族学者の柳田国男が珍しい地名として取り上げた(柳田国男「地名の研究」)香爐谷(香呂木谷)があり、そして、産土神の天津神社(妙見神社)が鎮座して、

神社の境内には目通りが六mもあるむくの太木が立っています。また、林元洪が宝暦三年(一七五三)に書かれたものを記録した古碑も残っています。

「鍋坂」という地名は鍋形になった地形に由来するもので「鍋を伏せたよな地形をした場所」という意味で「鍋山」とか「鍋島」などと同じ地形の形を表す地名なのです。

(文・松前俊洋さん)



渡雁から見た「鍋坂」